

国土交通省総合政策局
情報政策課交通経済統計調査室
平成27年12月3日(木)公表

トラック輸送情報

平成27年9月分

平成27年10月分は平成28年1月上旬公表予定

*問い合わせ先

国土交通省総合政策局情報政策課交通経済統計調査室

電話 03-5253-8111 F A X 03-5253-1567

担当 廣中、桑原 内線 28-723

この調査報告の概要は、国土交通省ホームページでもご覧いただけます。

<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

トラック輸送情報（平成27年9月分）

平成27年12月3日
総合政策局 情報政策課 交通経済統計調査室
担当：廣中、桑原 内線28723
直通：03-5253-8346
<http://www.mlit.go.jp/k-toukei/index.html>

1. 特別積合せ貨物

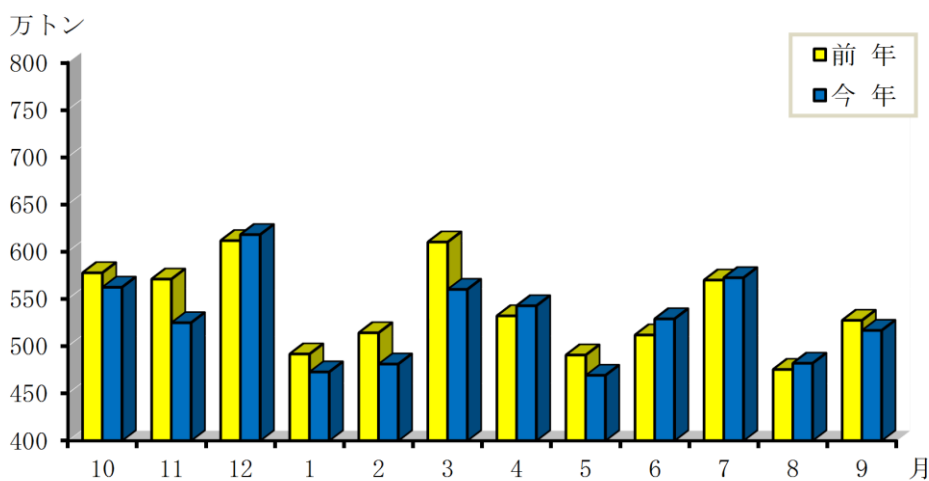
(1) 本月の概況

調査対象24社の本月の輸送量は、5,167,866トンで、前月と比べ総輸送量が約347千トン増加したため、前月比107.2%（季節調整済み98.4%）となり、前年同月との比較では、約106千トン減少したため、前年同月比98.0%の実績であった。

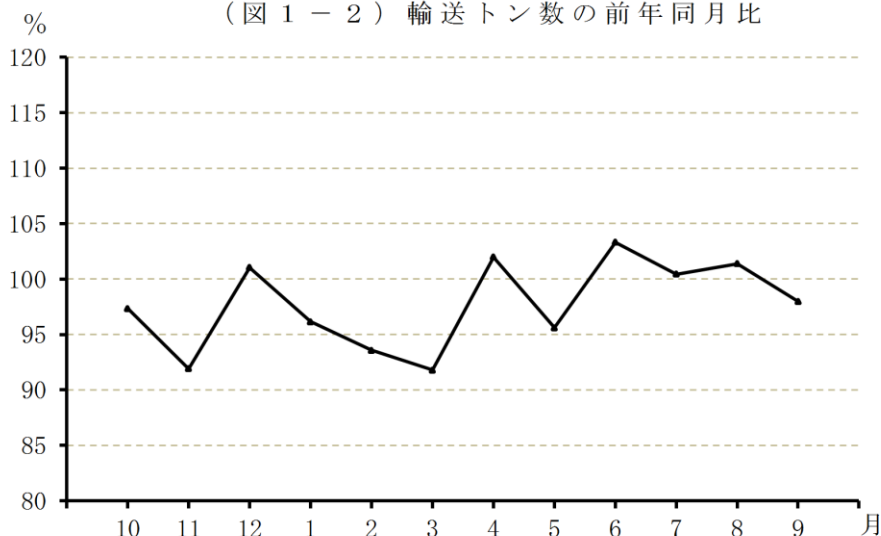
なお、平均稼働日数は22.8日で、前月と比べ0.2日減少し、前年同月との比較では、0.7日減少であった。稼働1日当たりの輸送量は、226,661トンで、前月と比べ約17千トン増加したため、前月比108.1%となり、前年同月との比較では、約2千トン増加したため、前年同月比101.0%の実績であった。

（図1-1、図1-2参照）

（図1-1）輸送トン数の推移



（図1-2）輸送トン数の前年同月比

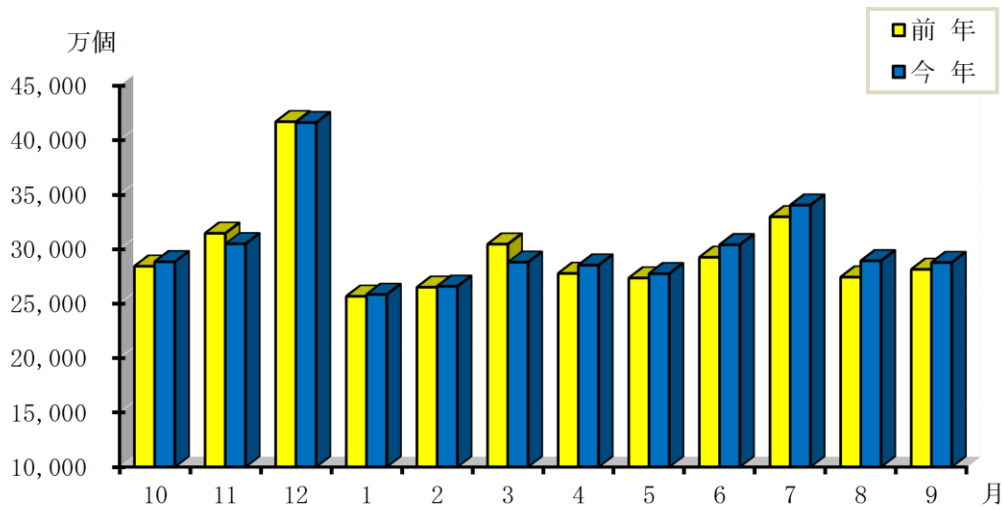


(2) 宅配便の概況

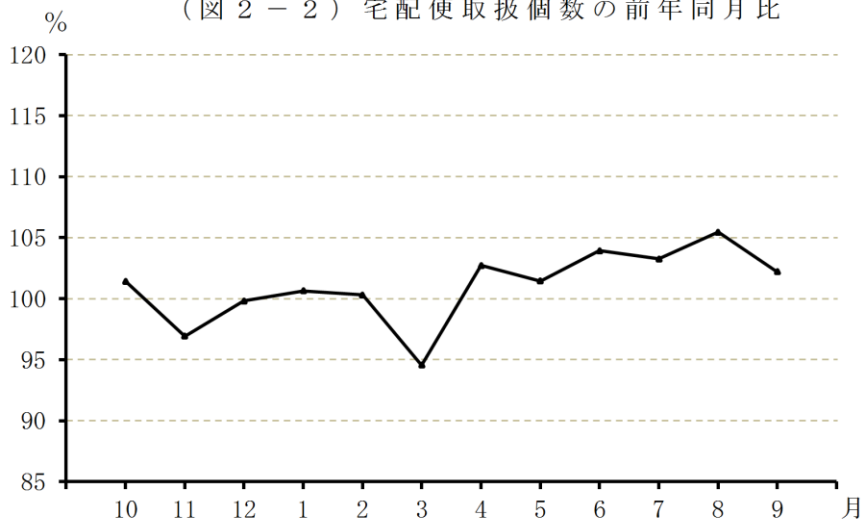
調査対象 14 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、約 287,586 千個で、前月と比べ 約 1,639 千個減少したため、前月比 99.4% (季節調整済み 99.3%) となり、前年同月との比較では、約 6,251 千個増加したため、前年同月比 102.2% の実績であった。

(図 2-1、図 2-2 参照)

(図 2-1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2-2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

調査対象 25 社 (24 社及び品目別・地域別輸送状況回答 1 社) は、前月と比べると、「農水産品」を除いた全ての品目において、輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。その増加要因としては、工場・生産地からの貨物増であった。また、倉庫から出る貨物増が「化学工業品」、「日用品」で、季節的需要増が「機械」、「日用品」で見られた。地域については、関東地方から中国の範囲で増加したと回答する事業者が多かった。

前年同月と比べると、「農水産品」、「食料工業品」を除く品目で輸送量が減少したと回答する事業者が多かった。主な減少要因としては、工場・生産地からの貨物減が「機械」で見られた。主な減少地域は「東京」、「関東」、「中部」、「中国」であった。

(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 25社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※ 増減要因
	著 増	著 減	変 ら ず	著 減			
前 月 に 比 べ て	農水産品			12	4	2	
	金属製品		5	13	3		近畿 4
	機 械		8	9	3	機械部品	関東地方、北陸信越、中部地方、近畿地方 4, 8
	化学工業品		7	12	3	合成樹脂	神奈川、関東、北陸信越、大阪 4, 7
	繊維工業品		6	14	2		神奈川、関東、中部、中国 4
	食料工業品		5	13	2	その他の食料工業品	神奈川、愛知、近畿 4
	日 用 品	1	9	9	2	その他の日用品	関東地方、北陸信越、中部地方、大阪、兵庫、中国 4, 7, 8
	そ の 他		5	9	3	1	
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品	1	1	13	2		
	金属製品		1	13	6		中国 4
	機 械		4	9	6		4
	化学工業品		2	11	8		東京、中部 4
	繊維工業品		1	17	3		
	食料工業品		3	14	2	その他の食料工業品	
	日 用 品			15	5		関東
	そ の 他		3	11	4		

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらを除く府県、九州は沖縄を含む)]単位である。
なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国の一般貨物トラック事業者(本月の回答事業者821社/調査対象事業者数1,004社)の輸送量は、前月比 106.3%、前年同月比 97.5%であった。

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北海道	東 北	関 東	北 信	陸 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	97.5 %	99.1 %	97.7 %	95.9 %	94.4 %	101.5 %	96.3 %	93.1 %	100.1 %	95.8 %	99.8 %	
前 月 比	106.3 %	106.9 %	104.0 %	108.2 %	105.8 %	111.4 %	105.6 %	109.0 %	102.0 %	104.5 %	113.9 %	

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況 (各運輸局より回答のあったもの)

北海道	<p>本月の輸送については、対前月比 106.9%、対前年同月比 99.1%であった。品目別では、建設関連の需要増により「砂利・砂・石材」、「セメント」及び「その他窯業品」が、工場・生産地からの貨物増により「穀物」が、季節的需要増により「野菜・果物」、「動植物性飼・肥料」が、また、「その他石油製品」、「木材」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、「石炭」、「化学肥料」及び「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送については、対前月比 104.0%、対前年同月比 97.7%であった。品目別では、新米の出荷開始の影響により「穀物」が、露地野菜の出荷増により「野菜・果物」が、工場・生産地からの貨物増により「化学製品」、「その他の製造工業品」が、建設関連の需要増により「その他の製造工業品」が、また、「輸送用容器」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、「紙・パルプ」、「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は増加傾向、以降はほぼ横ばいが予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送については、対前月比 108.2%、対前年同月比 95.9%であった。品目別では、「機械」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、食料工業品の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降ともほぼ横ばいが予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送については、対前月比 105.8%、対前年同月比 94.4%であった。品目別では、季節的需要増により「穀物」が、建設関連の需要増により「鉄鋼」、「その他の窯業品」が、また、「金属製品」、「セメント」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「食料工業品」が、また、「その他の石油製品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降ともほぼ横ばいが予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送については、対前月比 111.4%、対前年同月比 101.5%であった。品目別では、建設関連の需要増により「機械」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送については、対前月比 105.6%、対前年同月比 96.3%であった。品目別では、「金属製品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、酒類・飲料品の季節的需要減により「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送については、対前月比 109.0%、対前年同月比 93.1%であった。品目別では、季節的需要増により「野菜・果物」が、また、「穀物」、「機械」及び「日用品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降ともほぼ横ばいが予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送については、対前月比 102.0%、対前年同月比 100.1%であった。品目別では、季節的需要増により「野菜・果物」が、工場・生産地からの貨物増により「紙・パルプ」が、また、「化学製品」、「日用品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、「水産品」、「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降は増加傾向が予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送については、対前月比 104.5%、対前年同月比 95.8%であった。品目別では、季節的需要増により「野菜・果物」が、建設関連の需要増により「砂利・砂・石材」が、また、「木材」、「金属製品」、「セメント」、「その他の窯業品」、「その他の石油製品」、「紙・パルプ」及び「その他の製造工業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、「水産物」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送については、対前月比 113.9%、対前年同月比 99.8%であった。品目別では、「鉄鉱」、「機械」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、商社・問屋からの貨物減により「食料工業品」が、また、「日用品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月は増加傾向、以降は減少傾向が予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況（対前月比）

回答のあった事業者数を取りまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
品目		海	北	東	陸	部	畿	国	国	州	縄	国
		道			信							計
1. 穀物	増	3	5		5			3	1	1		18
	減	1	1									2
2. 野菜・果物	増	7	4				1	3	6	8		29
	減	1	1					1	1	3		7
3. その他の農産品	増	2				1		1			1	5
	減	1						1	1			3
4. 畜産品	増									2		2
	減									1		1
5. 水産品	増	2	1				1			1		5
	減	1	2			1		1	2	3		10
6. 木材	増	3			2			1	2	2	1	11
	減	1	1		1				1		1	5
7. 薪炭	増											
	減											
8. 石炭	増	1	2									3
	減	3										3
9. 金属鉱物	増		1					1				2
	減	1						2				3
10. 砂利・砂・石材	増	9	1					2	2	4		18
	減	4	1					1	1	2		9
11. 工業用非金属鉱物	増	1	1			1			1			4
	減	1							1			2
12. 鉄鋼	増		2	1	4				2	2	2	13
	減		1		1				3	1		6
13. 非鉄金属	増							1				1
	減		1									1
14. 金属製品	増				2		2	1	2	6	1	14
	減								1		1	2
15. 機械	増	1	1	2	1	4	1	7	1	4	2	24
	減				1		1	1	2	3		8
16. セメント	増	3	1		2	1		2	2	5		16
	減	1						2	1			4
17. その他の窯業品	増	3	1		4					3		11
	減				1	1			1			3

運輸局		北 海 道	東 北	関 東	北 陸 信 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄	全 国 計
18.揮 発 油	増	1	1					1				3
	減		1		1			1				3
19.その他の石油製品	増	4						1	1	2		8
	減				2			2				4
20.コークス・ その他の石炭製品	増											
	減											
21.化 学 薬 品	増		2						2			4
	減											
22.化 学 肥 料	増			1					1			2
	減	2			1					1		4
23.その他の化学工業品	増	1			1			1	1			4
	減				1		1					2
24.紙 ・ パ ル プ	増				1		1		4	3	1	10
	減	1	3						2	1		7
25.織 維 工 業 品	増	1	2			1	1		1			6
	減											
26.食 料 工 業 品	増		1		1		1		2	5		10
	減	2	5	2	4		4	2	4	4	2	29
27.日 用 品	増		1	1	1			3	2		1	9
	減	1					1	1		1	3	7
28.その他の製造工業品	増		7		1		1	1		4		14
	減		1				1		1	1		4
29.金 属 く ず	増	1								1	1	3
	減										1	1
30.その他のくずもの	増											
	減											
31.動植物性飼・肥料	増	5	1					1		1		8
	減							1		2		3
32.廃 棄 物	増	1	2			1				2		6
	減	1	1							1		3
33.輸 送 用 容 器	増	1	2		1							4
	減				1				1			2
34.取 り 合 せ 品	増		1							1		2
	減		1								1	2
35.そ の 他	増	1	3	1			3	7	1	2		18
	減		1	3	2		3	5	1	5		20